

経営比較分析表（令和2年度決算）

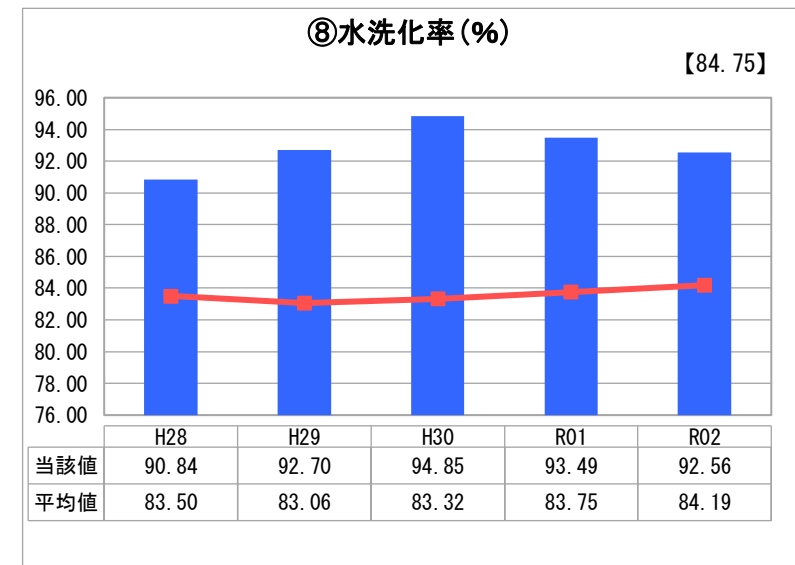
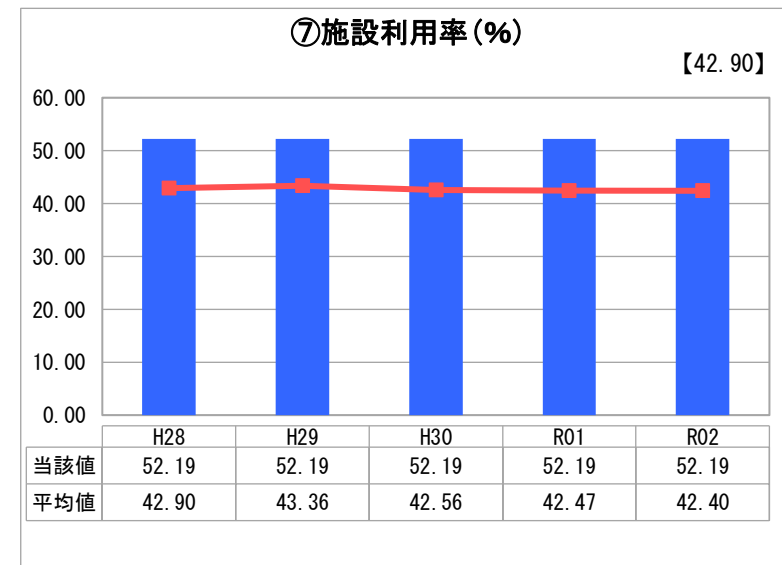
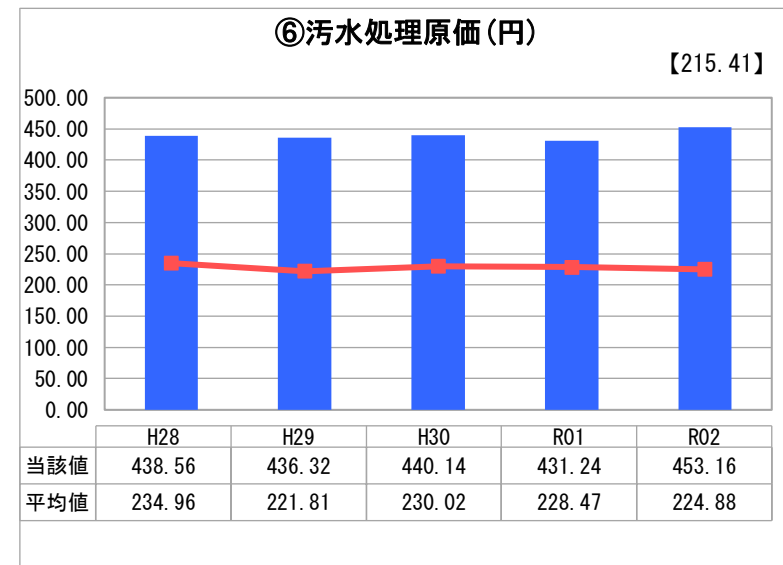
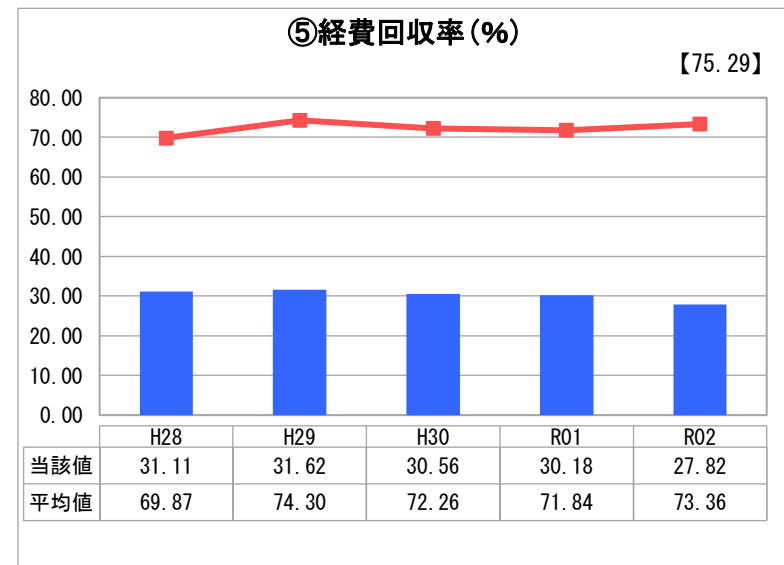
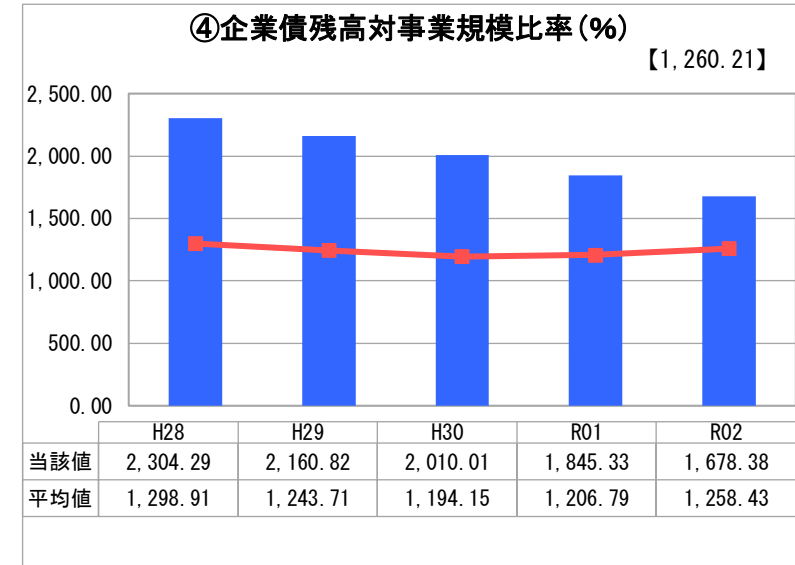
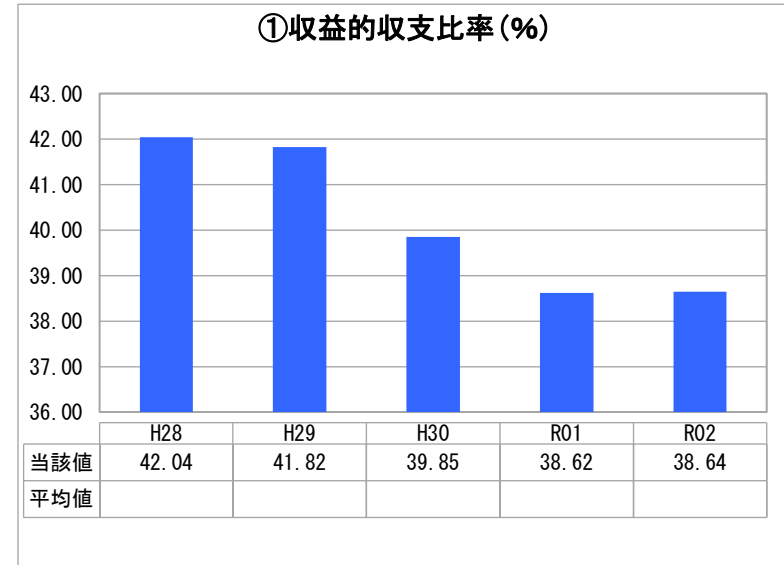
福井県 若狭町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	41.90	100.00	3,850

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,431	178.49	80.85
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,008	2.32	2,589.66

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は、100%を大きく割り込んでいる。地方債元利償還金を一般会計繰入金に依存していることが要因である。施設の整備はほぼ終了しており、水洗化率も類似団体平均値より高く約93%に達している中で、比率を上げるには、維持管理経費の削減と料金改定が必要である。

④企業債残高対事業規模比率が類似団体平均値より高い状況にあるが、特定環境保全公共下水道事業の整備は完了しており、現在、企業債の新規借入の予定はなく、元利償還額のピークも過ぎたため、今後は、類似団体平均値に近づいていくと考える。

⑤経費回収率は、類似団体平均値を比べ約半分の回収率である。ほぼ横ばいの状況が続いているが、今後は経営効率の改善と健全運営を見据えた料金改定が強く求められる。

⑥汚水処理原価は、類似団体と比べて高い。地理的な要因もあり、施設に要する経費が大きいことが主である。今後、更なる経費の削減が必要である。

⑦施設利用率は、類似団体と比べて高くなっているが横ばい状況が続いている。整備が完了していることもあるが、更なる向上を図りたい。

⑧水洗化率は、ほぼ93%となっており、類似団体と比べて高い。水質保全のためにも、100%に近づき今後も接続の推進を図っていく。

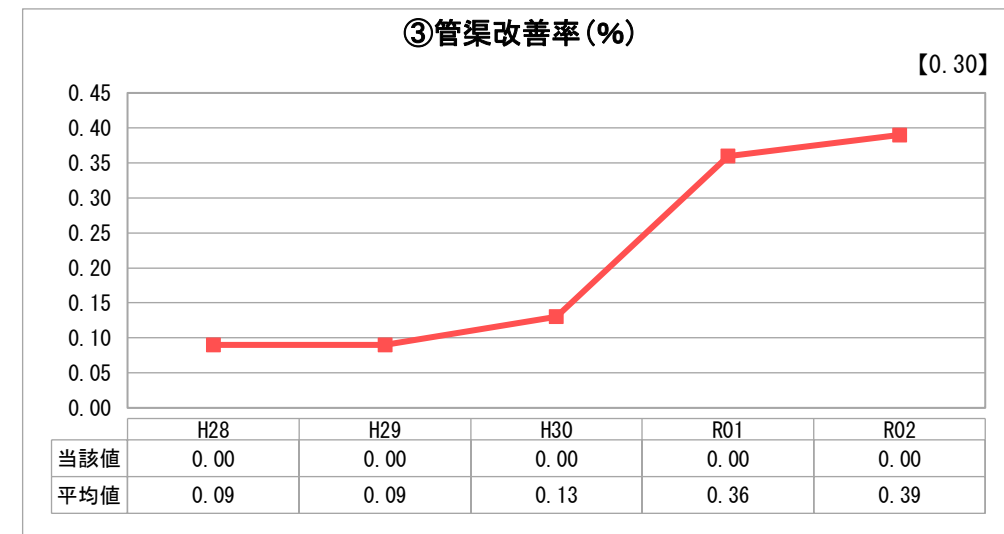
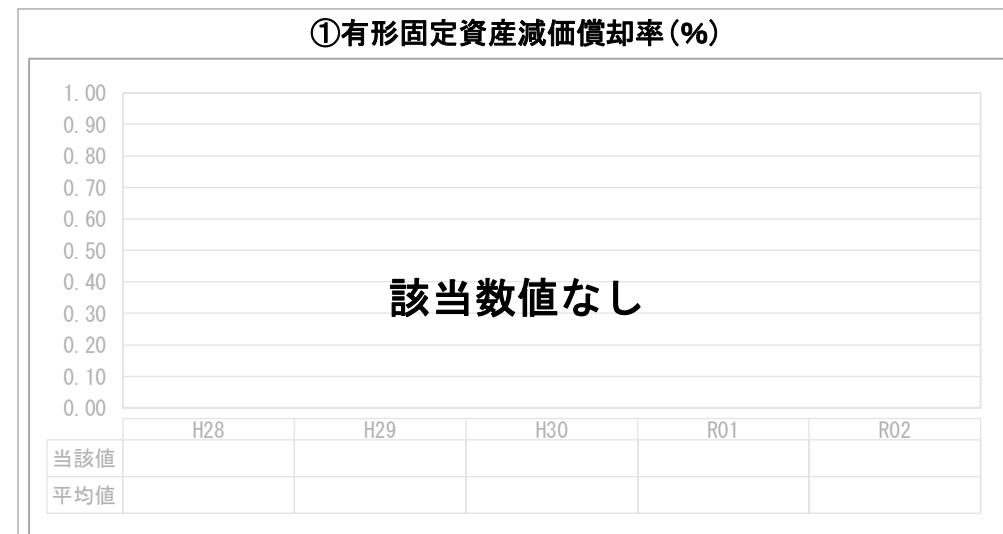
2. 老朽化の状況について

当町の特定環境保全公共下水道施設は4地区に別れており、施設の供用開始年度は平成9年から平成19年となっている。

最も経過している施設で管渠で28年、処理場で25年となっている。従って、管渠についてはほぼ塩ビ管であるため、現状としては、管渠の更新は実施していない。処理場については、機械電気設備が耐用年数経過により修繕が多くなってきており、状況に応じて更新を行っている状況である。

今後は、特に修繕改築が必要となっている終末処理場の点検・調査を実施し、SM実施計画を策定し、施設の更新を実施していく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

当町は、現在、公共下水道整備は完了しており、水洗化率も高く、使用料収入は、居住人口の減とともに、今後少なくなっていくことが想定される。反対に、施設の維持管理費は老朽化とともに年々増大していくことが想定され、事業を取り巻く環境は厳しさを増していく。今後は、令和元年度に策定した「若狭町下水道事業経営戦略」に基づき、施設の統廃合による維持管理経費の大幅な削減、令和3年4月より料金改定による使用料収入の増を図り施設の更新等を実施していく。

また、併せて、下水道事業会計の公営企業化にも取り組み、事業経営の健全化を進めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。